

招 招 と む か わ の 路 Information

■第30回おとし夏まつり 10月23日は大歳まつりが開催

8月6日午後6時より、「第30回おとし夏まつり」が行われました。幸い天候にも恵まれ、駐車場には屋台が並び、ステージでは交流センターを定期利用されている団体のアトラクションが披露されました。

恒例の大抽選会や、アメモチまきに子ども達の歓声で賑わいました。また盆踊りは、浴衣姿の娘さんたちのあでやかな姿でいどられました。なお、10月23日は恒例の「第40回大歳まつり」が開催されます。たくさんの方の参加をお待ちしています。



■大歳花いっぱい運動花壇コンクールを開催

去る、8月3日に花壇審査を行い、下記のとおり決まりましたのでお知らせします。なお、表彰は、10月23日の「大歳まつり」で行います。また、山口市花壇コンクールに推薦しました上矢原子ども会花壇がモデル賞に選ばれ、山口県花壇コンクールに推薦されました。

- ★**優秀賞**
上矢原子ども会
勝井自治会
矢原第2住宅子ども会
- ★**優良賞**
朝田福寿会
下矢原子ども会
下湯田自治会
- ★**努力賞**
中矢原子ども会
上湯田上自治会
坂東自治会
岩富子ども会
矢原住宅自治会
下湯田自治会
(3班4班合同花壇)
下矢原自治会

美しく咲いた優秀賞の花壇



行/事/予/定

9~11月

- 9月17日(土) 大歳地区敬老祝賀会【県総合保健会館】
- 9月22日(木・祝) 交流列車おとしまつり【交流列車おとし】
- 9月24日(土) 大歳小学校運動会【大歳小学校】
- 9月27日(火) 高齢ドライバー1日ドック【山口県交通安全学習館】
- 10月 2日(日) 第39回大歳地区バドミントン大会【大歳小学校】
- 10月16日(日) 大歳地区一斉清掃【各自治会内】
- 10月23日(日) 第40回大歳まつり【大歳小学校または交流センター】
- 11月11日(金) 高齢ドライバー1日ドック【山口県交通安全学習館】

■大歳地区一斉清掃のお知らせ

今年の一斉清掃日は10月16日(日)です。昨年は、5,561人が清掃活動に参加され地区内をきれいにさせていただきました。今年も、皆さんからのご協力をいただき、大歳地区内をきれいになりたいと思います。皆さんの参加をお願いいたします。

■第7回三世代交流グラウンドゴルフ大会が開催されました

第7回三世代交流グラウンドゴルフ大会が8月20日(土)炎天下の下、大歳小学校グラウンドで開催され、59人が参加しました。

子どもたちも31人が参加し、お年寄りからのアドバイスを受けながら和やかにプレイを楽しんでいました。結果は次の通りです。



子どもの部	優勝 竹島 彩葉	一般の部	優勝 横山 利明
	準優勝 池田宗太郎		準優勝 後藤 健公
	3位 堀 幸仁		3位 青木 利成



編集後記

アマゾンのほとりマナウスから暑さに負けぬ熱さで、大歳出身のサッカー久保裕也選手の応援記を掲載する予定でしたが、久保選手が出場できなくなったため、中止となりました。(残念!)しかし、久しぶりに100歳インタビューを載せることができました。まちは'人'でできています。これからも人が活躍する様子のわかる「かわら版」づくりに励みます。(武波)

まちづくり かわら版 おとし

2016.9 Vol.41

敬老特集

元気なのはよう働いたからじゃろう!

おめでとう100歳

伊藤マサ子さんにインタビュー



伊藤マサ子さん(高井)

平成28年9月現在、山口市には100歳以上のお年寄りが141名いらっしゃいます。女性121名、男性20名と女性の長寿が目立ちます。9月17日(土)の敬老祝賀会を前に、大歳では数少ない100歳まであと少しの伊藤マサ子さんの元気な姿をインタビューしました。

伊藤さんは、大正6年3月20日生まれ、早生まれで、今年度100歳になります。実はもっと早く生まれていたが、昔のことで届け出が遅れたと母から言われたそうです。仁保に生まれ、高井の伊藤家に嫁に来ました。夫は長男で「長男の家には嫁入りするな」と俗にいわれる苦勞を重ねてきましたが、ご本人は舅・姑・小姑の中で嫁として苦



猫6匹と生活しています

勞したとは一言も言わず「まあ、よう働きました。おかげで今も元気にしています」と屈託がありません。ただ、夫が出征中一町五反ものたんぼを馬を使って耕した苦勞は鮮明に覚えていて「とにかく、馬が言うことを聞きやあせんで、大変でした」といいます。馬は牛に較べ、扱う人間の顔色を見るとよく言います。女性が扱おうとしても簡単にいかない場面が目に見えそうです。その夫も18年前82歳で亡くなりました。

昭和10年には突貫工事で、現在の旧九号線ができました。伊藤家の目の前が道路になったわけで、「随分便利になった」といいます。もっとも買い物は現在の大歳バス停付近にあった数軒の店と鮮魚・乾物などの行商から買い置きことで済んだと言いますから、半自給の質素な生活であったようです。

伊藤さんの家には萩から行商に来た人が寝泊まりして、近辺を行商していたと言いますから、毎日のようにスーパーへ買い物に行く生活とは随分違ったものでした。

また、田植え時期には佐々並から早乙女が田植えの手伝いに来ていました。宮野からここを終ると南部に行く予定と言い、「これを何年かすると嫁入り道具が揃えられます」と笑っていたそうで、機械化以前の田植えの大変さをしのばせるエピソードです。



娘さんと

さて、今マサ子さんが凝っているのはジグソーパズルで、数年前までは千ピースもの大型パズルを1ヶ月ばかりで完成させていたそうです。今は300~500ピース程度のもので、たくさんキャラクターが登場して色の変化に富む「ディズニーもの」がお気に入りです。「足は動き過ぎで、すり切れてしまいたいね」と、足がやや不自由で杖に頼っていますが、要介護1と100歳を目前にしたとは思えないほど、顔色も良



ジグソーパズルを持つ伊藤さん

く実に元気です。お気に入りの猫ちゃん6匹を相手にゆっくり留守番をするのが楽しみと言います。一人でゆっくり過ごし、ストレスをためないのが元気で長寿の秘密のようです。

敬老特集
紹介

友あり、いつでも会える。 また、楽しからずや！ 福寿会で培う元気

大歳の老人クラブ「福寿会」は山口市の中でも活動が盛んで、各地域の福寿会で多様な取り組みが行われています。福寿会に参加して「**齢をとるのも悪くないなあ**」と思える老人力を鍛えてみませんか。

老人クラブと聞けばたいのいのが「いやあ、まだまだワシは元気だから」と断ります。

しかし、大歳の老人クラブ「福寿会」メンバーに言わせれば「元気な内に入るのが、元気に長生きする秘訣」だとか。

確かに、動くたびに、体が軋んで「どっこいしょ」という声になる年頃を迎えると「サンデー毎日だ」とのんきに構えてばかりもおられぬ気がしてきます。死期を迎えた子規のように動けぬ体で、机上のガラス鉢の金魚を見ながら「痛い事も痛い綺麗事も綺麗ぢや」と悠然と楽しむ人はあまりいません。とすれば、残り時間を計算しながら、どう充実させるかに思いが及ぶことになりませぬ。早くそのことに気づくだけ、充実度は高まるわけで、その第1はやはり「友あり、いつでも会える。また楽しからずや」になっていくでしょう。

それでは福寿会とはどんな目標を掲げているのでしょうか。

『老人クラブ(福寿会)は「食べて・動いて・日々楽しく」をモットーに、「健康づくり・友達づくり・社会奉仕・会員の増加」を柱に、会員同士共に手を携えて年間を通してさまざまな活動に取り組んでいます。

その結果として、健康長寿の道を共に歩み、将来的には百歳の祝杯を賑やかに楽しく高く掲げたい。そしてその時、言いたい、孫が「還暦(60歳)、子供が「傘寿(80歳)、私は「鶴寿(百歳)」で、慶寿この上なし。』

随分欲張った目標ですが、下の写真を参考に60歳を越えたら、のぞいてみませんか。

(お問合せは 坪郷芳一さんまで ☎924-8507)



■やまぐち車座トーク21開催 —— 地域の安心安全を守るためには

8月18日(木)、大歳地域交流センターで“やまぐち車座トーク21 in大歳”が開催されました。

今年のテーマは“地域の安心安全”とりわけ通学路の安全確保について意見交換が行なわれ、“石州街道”を対象とした環境改善や新たな規制の必要性などが挙げられました。

対策を実施するためには、地域の理解と協力が不可欠とのことであり、詳細については、今後地域の皆様へ改めてお願いしてまいりますので、その際にご協力をお願いします。



やまぐち車座トーク21の様子

「がんばる人 in OHTOSHI」のコーナーでは、地域でイキイキと活躍している人達をご紹介します！

がんばる人 in OHTOSHI Vol.6



徳光弥生さん

徳光弥生さんのプロフィール
職業・グラフィックデザイン業
家族3人・ネコ大好きな人

今回は矢原にお住まいの徳光弥生さんです。徳光さんは、山口市徳地が平成18年(当時徳地町)に日本初の「森林セラピー基地」に認定されて以来、現在まで約10年間「山口徳地森林セラピー基地・森の案内人」として大原湖周辺や重源上人が東大寺再建のため用材を伐りだした滑山国有林がもつ魅力を多くの人に感じてほしいと活動をしてきました。

もともと徳光さんは植物が好きな「植物女子」でしたが、案内人になるときに学んだ草本・木本・森林のもつ癒しやリラックス効果に強く興味をもち、当初から森林セラピー基地の広報担当として、広報紙やパンフレットづくりをする



「山口徳地森林セラピー基地」の森の案内人

と共に、月2回のイベントにも積極的に参加しています。

現在、森の案内人は88人にもなり、「森カフェ」や「森フェス」という大々的なイベントも実施されるようになっていきます。

徳光さんは「徳地の森には五感(観る・聴く・嗅ぐ・触れる・味わう)に心地よい魅力があふれています。多くの方に、徳地の森の癒し効果を体感しに来て欲しい」とおっしゃっていました。



徳地森カフェで案内をする徳光さん

大歳歴史の散歩道 Vol.20

周布政之助 その1

攘夷後開国論

吉富簡一郎を出て大曲に沿って数分歩くと右手に周布公園が見えます。この地に吉富家などの墓地があり、周布政之助は麻田公輔の名でここに葬られています。今は側に立派な顕彰碑が建っています。周布政之助は文政6年(1823)生まれで、父と兄を相次いで失い、生後6ヶ月で周布家の跡目を相続します。村田氏から嫁に来た母は、村田家の最有力者村田清風(長州藩の天保の改革を推進)に政之助の訓育を願い、清風の薫陶を強く受けながら成長します。明倫館で秀才の誉れ高く、25歳で役につくと、嘉永6年(1853)31歳で江戸藩邸の中枢に昇るといふ異例の昇進を遂げます。この時、彼が直面したのがペリー来航という大事件でした。村田清風以来海防強化に努めてきた長州は大森警護を見事にこなすと共に、更なる海防強化のため、幕府の大名統制の根幹に関わるような「錫の自由購入=大砲製造に必要」や「武器の輸送の自由」を幕府に要求します。こうした発想ができる点が政之助の重用されたゆえんでしょう。

政之助は早くから「攘夷後開国」を唱えます。攘夷論には神国日本を洋夷に汚させてはならぬといったヘイトスピーチレベルのものもありましたが、当時の知識人に共有されていたアヘン戦争の轍を踏まず、植民地化を避けるための攘夷論もあり、それは海防強化のために旧体制の改変も視野に入れていました。政之助の攘夷論が後者であることはあきらかです。同時に、独立を確保すれば開国に転じ、進んだ文化・器物を学ぶべきであり、それにはオランダよりイギリスが良いというのが政之助の論でした。彼の活動の方向を示す論といえます。



周布公園にある周布政之助の顕彰碑
毛利元昭の字で書かれている